



グローバル EHSS - ながら歩きおよび階段歩行時の安全基準

管理情報

管理項目	詳細
文書番号	TEDSZF665RUJ-2038493890-127
改訂	2
改訂日	2024 年 10 月 04 日
ECN 番号	101173547
翻訳版文書	英語 、 簡体字中国語 、 繁体字中国語 、 ヒンディー語 、 イタリア語 、 日本語 、 マレー語 、 ネパール語 、 スペイン語

目次

1	目的	3
2	適用範囲	3
3	役割と責任	3
4	用語と定義	4
5	参考資料	4
6	文書管理	5
7	改訂履歴	6
8	基準	8
8.1	ながら歩き	8
8.1.1	歩行時の期待事項	8
8.1.2	手を使わないで操作できるデバイス	8
8.2	階段の歩行と手すりに関する要件	9
9	付録	10

表

No table of figures entries found.

図表

No table of figures entries found.

1 目的

この文書は、すべての廊下/通路、階段および駐車エリアを含む、共有空間において歩行する際に求められることを定めたものです。

2 適用範囲

項目	詳細
対象となるサイト	本文書は、次のサイトに適用されます。 (NMS サイトの分類については、 本文書 を参照)
	☒ FE ☒ AT ☒ TD ☒ 工事エリア
	☒ NMS レベル 1 ☒ NMS レベル 2 ☒ NMS レベル 3 ☒ NMS レベル 4
対象者	Micron のチームメンバー、コントラクター、ベンダー、訪問者全員
適用について	サイトは、 改訂履歴 に記載されている適合日までに、この基準で概説されている要件を完全に満たすものとします。適合性を確認しないと、 ehsmoc/ に記録および承認された変更管理エントリがない場合に NC が発生する可能性があります。 サイトでは最低限、本基準を遵守するものとします。現地の法令、規制、または顧客固有の要件またはリスクアセスメントによって、より厳しい要件に従う必要があると判断された場合は、サイトはそれらの要件を満たす必要があります。

3 役割と責任

役割	責任
グローバル EHS	- すべての Micron のサイトで本基準を取り入れられる状態を確保・維持する - 本基準の配布に当たって、指示、相談、指導、最低要件を規定する - サイトにおける本基準の遵守状況を監視・評価する
サイト EHS	- 本グローバル基準を実施し、確実に効果を挙げる - Micron のチームメンバー、コントラクター、ベンダー、訪問者に確実に遵守させる - 不遵守が見つかった場合には是正措置を講じる - 本基準の要件と後続の変更内容を見直し、要件の効果的な実施を徹底させるための対応策を明確にする
Micron のチームメンバー、コントラクター、ベンダー、訪問者	- 本基準で概説されている期待事項を遵守する - 期待事項を満たすように他の人たちを指導する - 本基準の不遵守状態を確認して改善を推進する場合は、Good Catch プログラムを利用する
管理	- 本基準で概説されている期待事項を体現した模範となる - チームメンバーが期待事項に対して責任感を持つようにする

4 用語と定義

用語	定義
JHA	作業危険性分析 作業によって事故が発生する前に、危険を識別する方法として作業に注目した手法。JHA では、作業員、作業、工具、および作業環境との関係に着目します。特定された危険性は、取り除いたり管理したりできます。
RA	リスクアセスメント 設計、使用、インシデント、アクシデント、危害に関する知識および経験をもって、対象設備の特定のシナリオに関するリスクを測定する手順。リスクアセスメントには、機器の限界値の決定、危険の識別、リスク算定が含まれます。

5 参考資料

内部参考資料	リンク
Micron EHS 管理システムマニュアル	2W4373RQWREN-1568922467-158
外部参考資料	リンク
なし	なし

6 文書管理

項目	詳細
ECN 施設	コーポレート EHS
ECN エリア	EHS 全般
承認	本文書は以下によって承認されています。 GLOBAL_EHS_SEAL_LT
通知	本文書に対する変更通知は、以下のとおり Micron エンジニアリング変更通知（ECN）プロセスを通じて管理されます。 - GLOBAL_EHS - GLOBAL_EHS_MANAGERS - GLOBAL_EHS_SEAL_LT - GLOBAL_EHS_TEAM_MEMBERS
レビュー	本文書のレビューは、少なくとも隔年（2年に1回）、グローバル EHS/PSM により定期文書レビュー（PDR）プロセスを通じて実施されます。

7 改訂履歴

改訂	改訂日	内容	要請者	適合日
0	2015 年 04 月 07 日	ECN 番号 : 300837838 第一版	CDOTT	
0	2015 年 11 月 12 日	ECN 番号 : ワークフローなし 参考資料の項にリンクを追加。中国語翻訳を繁体字中国語翻訳に変更。	CDOTT	
0	2017 年 11 月 11 日	ECN 番号 : ワークフローなし 定期文書レビューを実施。変更の必要なし。	JEREMIAHMOH R	
1	2019 年 10 月 17 日	ECN 番号 : 101035917 「ながら歩き」を追加し、「階段を安全に使用するための基準」をリライト 改訂前 : - 文書の題名 : グローバル EHS - 階段を安全に使用するための基準 - 役割と責任 : - 管理 : なし - 用語と定義 : - ながら歩き : なし - JHA : なし - RA : なし - 基準 : - ながら歩き : なし - ながら歩きに関する期待事項 : なし - 手を使わないで操作できるデバイス : なし - 階段の歩行と手すりに関する要件 : 既存 改訂後 : - 文書の題名 : グローバル EHS - ながら歩きおよび階段歩行時の安全基準 - 役割と責任 : - 管理 : 追加済み - 用語と定義 : - ながら歩き : 追加済み - JHA : 追加済み - RA : 追加済み - 基準 : - ながら歩き : 追加済み - ながら歩きに関する期待事項 : 追加済み - 手を使わないで操作できるデバイス : 追加済み 階段の歩行と手すりに関する要件 : リライト	JEREMIAHMOH R	
1	2021 年 09 月 20 日	ECN 番号 : ワークフローなし 定期文書レビューを実施。文言の軽微な変更のみ。内容の変更はなし。	HEATHERC	
1	2022 年 11 月 18 日	ECN 番号 : ワークフローなし さまざまな場所でのモバイル機器の使用の禁止および限定使用に関する説明。 改訂前 : 6.2 ながら歩きに関する期待事項 - Micron は、すべての廊下/通路、階段および駐車エリアでのモバイル機器の使用を禁止。	HEATHERC	

		- 常に前方を見て、ノートパソコン、ポケベル、携帯電話など注意散漫にさせるものの使用を避けること。 - 注意をそらすような電子機器や電子アイテムを使う必要がある場合は、立ち止まって、通行路から外れた安全な場所（ベンチ、椅子、壁にもたれるなど）に移動すること。 ● 6.4 階段の歩行と手すりに関する要件 ○ 階段の昇降中のモバイル機器の使用は許可されていない。 改訂後： ● 6.2 ながら歩きに関する期待事項 ○ 階段でのモバイル機器の使用は禁止。廊下/通路や駐車エリアではモバイル機器の使用が制限されており、使用者が移動中ではない場合に限られる。 - 常に前方を見て、ノートパソコン、ポケベル、携帯電話など注意散漫にさせるものの使用を避けること。 - 注意をそらすような電子機器や電子アイテムを使う（テキストや着信への応答）必要がある場合は、立ち止まって脇に寄らなければならない。通行路から外れた安全な場所（ベンチ、椅子、壁にもたれるなど）に移動すること。 ● 6.4 階段の歩行と手すりに関する要件 階段の昇降中のモバイル機器の使用は禁止。		
2	2024 年 10 月 04 日	ECN 番号：101173547 ながら歩きと階段歩行に関するフォーマットと簡素化した要件の更新。	HEATHERC	

8 基準

8.1 ながら歩き

ながら歩きまたは非注意性盲目とは、他の何かに気をとられているために、直接知覚可能な範囲に存在するリスクや危険な状況を認識できないことです。モバイル機器を使っている人は、下を向いて歩いていて、周りに気が付きません。

モバイル機器に集中すると、人間の周辺視野が通常時の 10 分の 1 に狭まってしまい、周囲への意識が薄れるため、自身や他人を危険に晒すことになります。歩きながらテキストを打つ人たちは

- テキストを打っていない人と比較して、進行方向から逸れる可能性が 60% 高くなります。
- 通りを横切るのに、最大で 20% ほど長く時間がかかります。
- 左右両方を確認する回数が 20% 減ります。
- 車にひかれる可能性が 43% 高くなります。

ながら歩きが常態化すると、悲惨な結果を招くかもしれません。2022 年、Micron のとあるチームメンバーがモバイル機器に気を取られているせいで階段から落ち、11 ヶ月間昏睡状態に陥った後亡くなりました。

8.1.1 歩行時の期待事項

歩行中は常に警戒し、注意を怠ってはいけません。そして、モバイル機器を見てはいけません。歩行中は常に前方を見て、注意力を散漫させるものを避けてください。

Micron の敷地内にある階段、駐車エリア、車道でモバイル機器を使用することは固く禁止されています。

工事エリアでは重機、落下物、飛来物、大型車と接触する可能性があるため、チームメンバーにおよぼす危険性が一般的には高くなります。工事エリア付近を歩くときは、車両進入や出口通路、バリケード、立ち入り禁止ゾーン、交通標識を認識する必要があるため、特に注意してください。

画面に集中しなければならないモバイル機器は、移動中ではない場合にのみ使用しましょう。テキストを打つ必要がある場合は、立ち止まって脇に寄らなければなりません。通行路から外れた安全な場所に移動しましょう。

8.1.2 手を使わないで操作できるデバイス

手を使わないで操作できるデバイスであれば、前方に注意を払いながら使用できます。使用しても危険を知らせる警告音やアラーム音を遮らない場合に限り、下記のエリアで使用しても構いません。

- 階段
- 駐車エリア
- 道路
- 廊下/通路
- 生産エリア
- 設備エリア

○ 工事エリア

手を使わないで操作できるデバイスを使用しても絶対に危険を知らせる警告音を遮らないようにするため、骨伝導ヘッドホンを使用するか、片耳は塞がずに空けておくか、ノイズキャンセリングを最小化してください。

8.2 階段の歩行と手すりに関する要件

階段には、使用に関連するさらなる危険な状況やリスクが存在します。

- 階段でのモバイル機器の使用は固く禁止されています。
- 階段の昇降時には手すりにつかまってください。手すりにつかまっていれば、万が一階段を踏み外してもバランスを保ちやすくなります。
- 手すりをつかむための片方の手が空いていて、運ぶ資材の重量が 6.8 キロ（15 ポンド）以下の場合に限り、資材を持ちながら階段を昇降しても構いません。
 - 資材が扱いにくい場合、重い場合、または手すりをつかむために少なくとも片方の手を空けておくことができない場合は、資材運搬のためにエレベーターを利用してください。
 - エレベーターを利用できない場合は、資材を別の階に移動させる方法について安全に検討するために RA/JHA を完了させてください。
- 階段の昇降では走ったり、段を飛ばしたりしないでください。
- 注意散漫なときは階段を使用してはいけません。
 - 階段に集中してください。会話、呼び出し、メールのメッセージなど、気をそらす要因となるものに気を取られないようにしましょう。
 - 他の通行者の邪魔になるため、階段で会話をしないようにしましょう。

9 付録

なし

以上